

| | |
|----------------------------|---|
| 発行挨拶 | 1 |
| 新任教員研修実施状況について | 1 |
| LUNA活用紹介 | 3 |
| 学生調査・学修行動と授業に関する調査結果について | 7 |
| —新任教員研修会での報告をもとに— | |
| 学修行動と授業に関する調査実施報告(春学期)とお願い | 8 |
| LUNA利用実績 | 8 |

＝第21号発行にあたって＝

2021年度4月より、高等教育推進センター長を務めております小谷正登です。着任と本年度最初のニューズレター発行のご挨拶をさせていただきます。

前半の巻頭特集では、新しい試みとして4月・8月～9月に実施されました主に新任の先生方対象の「新任教員研修」の実施状況について報告いたします。次に、「課題レポートの再提出やテストの追試に関する Tips」と「項目の編集や削除に関する Tips」を内容とする LUNA 活用方法の紹介です。COVID-19 禍のもと、PBL やハイブリッド型教育の展開など、今後の教育活動を検討する一助としていただけましたら幸いです。続いて、後半では2021年度春学期「学生調査・学修行動と授業に関する調査結果」と2020年度のLUNA利用実績などについて報告いたします。なお、前述の「新任教員研修」は来る2月にも実施することを計画しております。詳細な日程・内容が決まり次第、皆様にご紹介させていただきます。

今後も本センターの活動へのお力添えをお願いいたします。

高等教育推進センター長 小谷 正登

新任教員研修実施状況について

2021年度 新任教員研修の実施状況について

2021年度は、新任の先生方を対象に計15時間の研修を予定しており、これまで4月・8月～9月にかけて12.5時間のプログラムを実施してきました。研修は学長室と高等教育推進センターが共同で企画・実施しました。ここでは、プログラムの実施状況を報告します。

(1) 実施プログラムの内容

4月の研修プログラム 計8.5h

| 実施日 | 実施プログラム | 参加人数 |
|------|---------------------|------|
| 4月6日 | 着任にあたっての基本事項 | 48名 |
| | 本学における教育活動について① | 48名 |
| 4月7日 | 具体的な教育方法・ツール利用について① | 46名 |

8月～9月の研修プログラム 4h

| 実施日 | 実施プログラム | 参加人数 |
|-------|---------------------|------|
| 8月30日 | 多様な学生に対する教育について | 38名 |
| 9月1日 | 本学における教育活動について② | 41名 |
| 9月3日 | 他大学の取り組みについて | 39名 |
| 9月6日 | 本学における授業改善に関する事例報告① | 39名 |
| 9月7日 | 本学における授業改善に関する事例報告② | 30名 |
| | 具体的な教育方法・ツール利用について② | 27名 |
| 9月8日 | 具体的な教育方法・ツール利用について② | 4名 |
| | 授業改善に向けたワークショップ | 9名 |
| 9月10日 | 具体的な教育方法・ツール利用について① | 1名 |

4月6日は、本学着任にあたっての教育・学生対応の方針や施設利用などの基本的事項に加え、IRデータに基づく本学学生の特徴や大学に求められるFD活動と質保証、具体的な教育方法（アクティブラーニング型授業等）に関するプログラムを実施しました。4月7日は、LMS（LUNA）の基本的な利用や多面的な評価方法に加え、オンライン授業の工夫や授業時間外学習の活用に関するプログラムを実施しました。

4月6日・7日の研修後に実施したアンケートの結果から、新任教員研修のオンライン開催や研修開催時期等に関する検討課題が明らかになりました。そのため、8月～9月の研修ではプログラムを全てオンライン化し、9月1日開催の必修プログラム以外は複数の候補日の中から選択できる形を取りました。また、8月～9月の一部のプログラムに関しては新任教員以外の教職員の方々にも参加して頂ける形を取り、学内のFD・SD研修を兼ねたものにしました。

8月30日には、多様な学生に対する教育について考えるために、本学総合支援センターの榎本千春主任カウンセラーに「気になる学生に対する支援」について講演をご担当頂きました。計38名の参加者があり、「ケーススタディはどちらも役立ちました。今後の対応の参考にしたいと思います。」などの感想が寄せられました。

9月1日には、IRデータを用いた本学学生の特徴についてセンター委員が解説を行い、実情を数値化することで教育方法等の見直しに繋がる機会を設けました。参加者数は41名でした。9月3日は、早稲田大学人間科学学術院の森田裕介教授に「早稲田大学におけるオンライン教育の取り組みとその位置づけ」についてご講演頂きました。コロナ禍以前からオンライン教育に取り組んできた経験についてご共有頂き、参加者からは「今年度の秋学期についてはもちろん、来年度のことも含めて、オンライン授業の実施方法を見直す上で、さまざまなヒントが得られ、有益なプログラムであった。ぜひ授業の改善に結びつけてゆきたい。」などの感想が寄せられました。参加者数は39名でした。

9月6日と7日は、「本学における授業改善に関する事例報告」を行い、6日に理系・文系・ICT関連、7日に共通教育・言語教育関連をテーマにプログラムを実施しました。6日は理学部の栗田厚教授と経済学部の上村敏之教授、社会学部の鈴木謙介准教授に講演をご担当頂き、日々の授業実践における工夫や利用ツール等について解説して頂きました。7日は、生命環境学部の住政二郎教授と日本語教育センターの浅津嘉之言語特別講師・山本真理准教授にそれぞれ英語教育と日本語教育に関する事例をご報告頂き、法学部の赤星聖准教授と専任事務職員影山美祈氏に法学部で実施している学外組織と連携した基礎演習について報告していただきました。6日と7日の参加者はそれぞれ39名と30名で、「持っておられるノウハウや手法はもちろん、先生方の背後にあるビジョンや理念も垣間見えたので、秋学期開講前にお話を聴くことができ、理論・実践の両面で非常に刺激を受けました。」などの感想が寄せられました。

9月8日にはセンター教員による「授業改善に向けたワークショップ：ループリックを作成する」が開催され、実際に授業で用いるループリックをもちより相互フィードバックなどを行いました。参加者は9名でした。また、9月7日、8日、10日にはLUNAの利用方法に関するプログラムも実施しました。オンラインで開催した7日と8日の参加者が計31名、対面で実施した10日が1名でした。

（2）今後の研修について

8月～9月の事後アンケートより、オンライン開催へと移行したことやプログラム内容に選択制を持たせたことについて、肯定的な感想が寄せられました。一方、プログラム内容や研修の進め方等について、課題のご指摘がありました。教職員の方々にとって有意義な研修になるよう、改善に努めたいと思います。ご参加頂きました皆様、講師として登壇して下さった皆様、誠にありがとうございました。

LUNA

課題レポートの再提出やテストの追試に関する Tips

LUNAでは実施した、「課題レポート」の再提出や「テスト」の追試を行うことができます。再提出や追試の方法には2種類あります。「同じ課題レポートやテストの設定を変えて行う」もしくは、「新しい課題レポートやテストを用意して行う」です。再提出や追試を行った学生を識別する場合は後者をお選びください。

<同じ課題レポートやテストの設定を変えて行う>

■ 課題レポート

Step_1. 「さらに受けられるようにする」を設定する

「成績管理全体」画面

「成績の詳細」画面

ドラフト保存中の答案が作成され、学生は再提出できるようになりました。

HINT!

課題レポートの提出回数を「1回のみ」もしくは「複数回」を設定し、学生の提出した回数が制限に達している場合に「さらに受けられるようにする」が表示されます。表示期間中で「さらに受けられるようにする」が表示されていない場合は、学生は再提出できる状態です。

表示期間が過ぎていて「教材・課題・テスト」画面で学生に非表示の場合、学生はまだ再提出できません。

Step_2 を行ってください。

Step_2. 「公開条件」の設定と「表示期間」を再設定する

対象者の「教材・課題・テスト」に「課題レポート」を表示させ、再提出できるように設定します。

①「公開条件」を設定してから、②「課題レポート」の編集と進んでください。

「教材・課題・テスト」画面

「課題レポートの編集」画面

再提出の期間を設定します。対象者のみ再提出できるようになりました。

HINT!
「表示期間」は「公開条件」を設定すると「課題レポート」と合わせた日時で一番小さい範囲が有効となります。そのため、先に「公開条件」の「表示の日付制限」を外します。

チェックを外します。

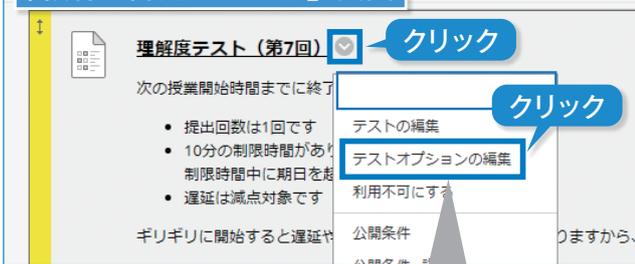
表示されるユーザー一覧から対象者を選択します。

■ テスト

「テストオプション」を再設定する

対象者の「教材・課題・テスト」に「テスト」を表示させ、追試できるように設定します。

「教材・課題・テスト」画面



HINT!

「テストオプション」では以下の4つを確認してください。

- ①「学生に利用可能にする」
- ②「表示終了日」
- ③「テストの例外設定」
- ④「期日後のテストの開始を許可しない」

「テストオプション」画面

① テストの利用可否の設定
「はい」を選択します。
学生に利用可能にする はい いいえ

② 表示終了日
「表示終了日」を選択して、過去の日時に設定してください。
(対象者以外の学生には非表示にするため)

HINT!
例外設定の「制限時間」と「強制完了」はあらかじめ設定されている場合に表示されます。

③ テストの例外設定
表示されるユーザー一覧から対象者を選択するとリストに表示されます。

「実施回数」を「複数回」か「回数無制限」に「表示期間」を「追試の日時」に設定すると対象者のみが、この設定で再受験できます。

④ 期日後
「期日後のテストの開始を許可しない」のチェックを外す対象者は期日後であってもテストを開始でき、再受験することができます。

リストからの削除ボタン

<新しい課題レポートやテストを用意して行う>

Step_1. 新たに「課題レポート」や「テスト」を作成する

Step_2. 再提出や追試対象者を「公開条件」に設定する

“■課題レポート・Step_2 の「公開条件」”の項目に従って、「公開条件」の「メンバシップ」に設定します。

Step_3. 元の「課題レポート」や「テスト」に点数が入っている場合は「成績の除外」を設定する

HINT!

- 「課題レポート」や「テスト」を作成すると「成績管理」画面の成績列が一つずつ作成されます。新たに「課題レポート」や「テスト」を作成し対象者を「公開条件」に設定することで、対象者のみが提出している成績列が作成でき、「成績管理」画面や、「名簿ダウンロード」などで対象者を識別することができます。
- 「成績管理」画面の「合計列」にはすべての成績列の点数が合算されます。元の「課題レポート」や「テスト」に点数が入っている場合は、対象者のセルに「成績の除外」を設定し「合計列」に影響がないようにします。必要に応じて対象者に「成績の除外」を設定していることをお知らせください。

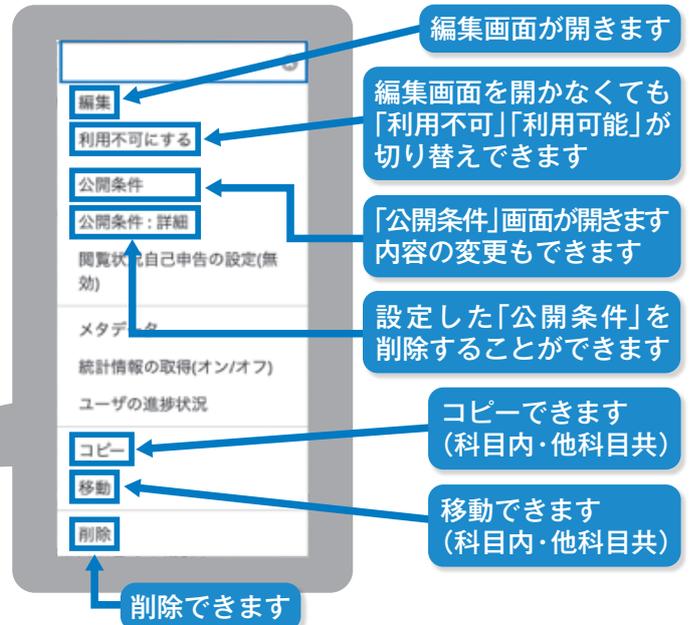
LUNA

項目の編集や削除に関する Tips

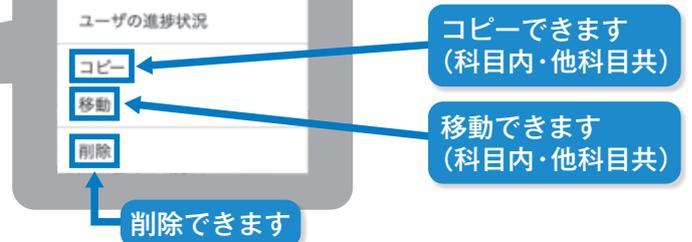
LUNAに作成した「お知らせ」や「教材」などの項目は、編集や削除、コピー、移動などが可能です。各項目の右横にある▼(メニューボタン)をクリックし、表示されたメニューの中から行いたい機能をクリックします。

メニューは項目によって変わります。今回は代表的な項目の「お知らせ」・「教材」・「課題」・「テスト」をご紹介します。

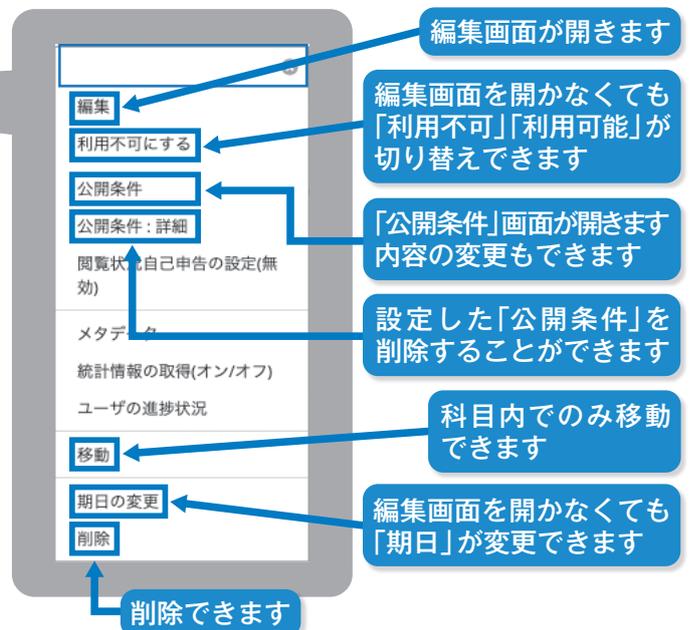
■ お知らせ



■ 教材



■ 課題



HINT!

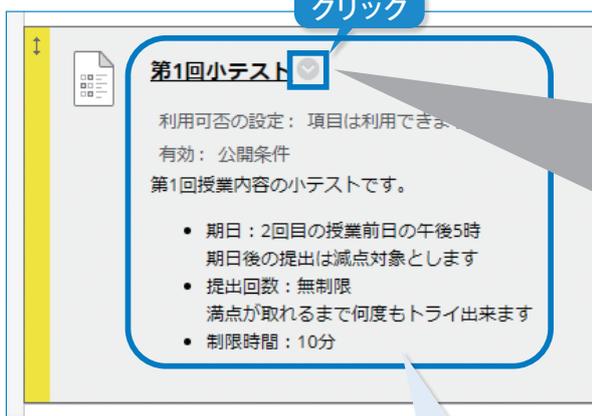
「課題レポート」や「テスト」はこのメニューでは他の科目に「移動」や「コピー」はできません。以下のツールで行ってください。

課題レポート ⇒ 課題ユーティリティ

テスト ⇒ テストのエクスポートとインポート(インポート後は「教材・課題・テスト」にリンクの掲載が必要です) ※詳しくは、オンラインマニュアルをご参照ください。

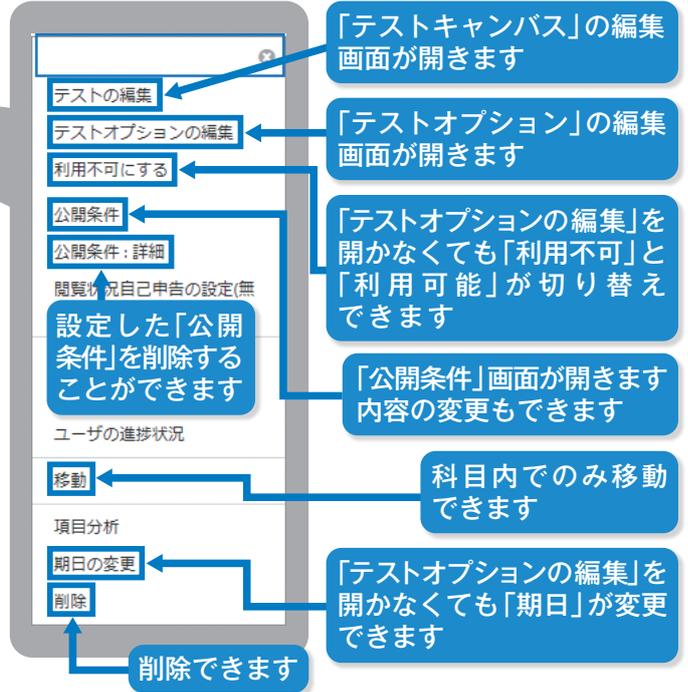
「教材・課題・テスト」画面の「掲示板」や「日誌」などのリンクも他の科目に「移動」や「コピー」はできません。

■ テスト



HINT!

「テストオプション」で入力する。
「名前」と「コンテンツリンクの説明」です。
「教材・課題・テスト」画面に表示されます。



「テストキャンバス」の編集画面が開きます

「テストオプション」の編集画面が開きます

「テストオプションの編集」を開かなくても「利用不可」と「利用可能」が切り替えられます

「公開条件」画面が開きます
内容の変更もできます

科目内でのみ移動
できます

「テストオプションの編集」を開かなくても「期日」が変更
できます

削除できます

HINT!

テストの編集には
「テストの編集」と「テストオプションの編集」があります。

◇「テストの編集」

「質問」や「テストの情報」が編集できます。
テスト期間中に正解の数も増やせます。
正解を変更すると、採点結果も更新されます。

◇「テストオプションの編集」

「教材・課題・テスト」に表示させる「テスト名」や
「説明文」、「表示期間」、「制限時間」などの
設定が編集できます。

◇「テストの編集」を選択すると「テストキャンバス (テスト用紙)」が開きます

名称や説明文を変更する場合はこちらをクリック

「テスト情報の編集画面が開きます

「テストオプション」の編集画面が開きます

HINT!
「テストの情報」で入力する。
「説明」と「手順」です。
学生の解答画面に表示されます。

「質問の詳細」画面が開きます

質問を変更する場合はこちらをクリック

「質問の編集」画面が開きます

IR 事例：学生調査からみる KG コンピテンシー獲得状況について

本学では、学生が4年間で身につけるべき知識・資質・能力である Kwansei コンピテンシー（以下、KG コンピテンシー）を定めています。この KG コンピテンシーの獲得状況を把握する1つの方法として、高等教育推進センターではアンケート調査を実施しています。ここでは、1年生と上級生を対象に実施している学生調査の結果から獲得状況についてご紹介します。

ここで対象となる調査は、2018年度の1年生調査(対象者数5,605名;回答率67.2%)と2020年度の上級生調査(対象者数5,523名;回答率16.7%)です。8つのコンピテンシーの獲得状況を確認するため、「身につけている」から「身につけていない」の5件法で回答を求めました。両調査の回答者から同一人物(647名)を特定し、どのような資質・能力が身についたと自己評価したかを確認しました(表1)。なお、現在 KG コンピテンシーは10項目あります(表2)。しかし、2018年度時点では8項目であったことからここでは「幅広い知識・深い専門性」と「よりよい社会に変革する情熱」の2つを除いています。

8項目全てにおいて2018年度1年生調査よりも2020年度上級生調査の回答の方が、有意に平均値が高くなっていました。2つの調査において平均値の差があった上位3つは、「生涯にわたって学び続ける力(平均値の差0.41)」、「多様性を尊重する力(同0.32)」、「誠実さと品位(同0.28)」でした。学生の自己評価ではありますが、本学での学生生活を通じて、KG コンピテンシーを獲得していることが伺えます。

一方、有意な差は見られたものの、平均値の差が小さかった項目として「豊かな人間関係を構築する能力(0.12)」があります。理由としては、これまでも人間関係を作ることはできていること、学生生活において豊かさを実感するまでにはいたっていない等、さまざまな理由が考えられます。

今回は、2地点における KG コンピテンシーの獲得状況を、学生調査から確認しました。結果として、KG コンピテンシーが獲得されていることがわかりました。今後は、こうした知識・資質・能力をどのような学びの機会を通じて獲得しているのか、そして、在学中に獲得した知識・資質・能力を卒業後に役立てることができているかについて、各種調査を通じて検証を続けていく予定です。

表2 KG コンピテンシー(10項目)

| | |
|---------------|----------------|
| 幅広い知識・深い専門性 | 豊かな人間関係を構築する能力 |
| 多様性を尊重する力 | 対立する価値を調整する力 |
| 論理的思考能力 | 困難を乗り越える粘り強さ |
| 主体的に行動する力 | よりよい社会に変革する情熱 |
| 生涯にわたって学び続ける力 | 誠実さと品位 |

表1 8つの KG コンピテンシーの獲得状況(対応のある t 検定)

| KG コンピテンシー | 2018年度 回答平均値 | 2018年度 標準偏差 | 2020年度 回答平均値 | 2020年度 標準偏差 | 2018-2020 の差 |
|----------------|-----------------|----------------|-----------------|----------------|-----------------|
| 多様性を尊重する力 | 3.81 | 0.666 | 4.13 | 0.690 | 0.32 |
| 論理的思考能力 | 3.74 | 0.609 | 3.99 | 0.591 | 0.25 |
| 主体的に行動する力 | 3.63 | 0.699 | 3.86 | 0.749 | 0.24 |
| 生涯にわたって学び続ける力 | 3.38 | 0.692 | 3.79 | 0.763 | 0.41 |
| 豊かな人間関係を構築する能力 | 3.72 | 0.797 | 3.84 | 0.870 | 0.12 |
| 対立する価値を調整する力 | 3.38 | 0.603 | 3.64 | 0.697 | 0.25 |
| 困難を乗り越える粘り強さ | 3.55 | 0.783 | 3.79 | 0.791 | 0.24 |
| 誠実さと品位 | 3.39 | 0.695 | 3.67 | 0.714 | 0.28 |

春学期の回収状況と秋学期調査期間のお知らせ

2021年度春学期の授業調査は、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止を考慮し、調査票の配付回収を伴うマークシート方式による実施を見送り、Web方式で実施いたしました。学生への回答周知等にご協力いただきありがとうございます。

Web方式はLMS (LUNA) を利用し、対象科目のうち学生から回答があった科目は、全体の92.4% (2020年度春学期89.3%) でした。

本調査の目的は、①学生の学修行動・成果の振り返り、②授業担当者による次年度以降の授業内容や授業方法の改善の促進、③授業環境について組織的な改善に結びつけること、の3点です。なお、各学部・センターのFD活動の一例は高等教育推進センターホームページの「FD活動報告」をご覧ください。

秋学期も引き続きご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

◆秋学期の実施スケジュール

<Web方式>

2021年12月10日(金)～2022年1月18日(火)

※実施要領・調査対象科目等の詳細につきましては、11月下旬に各授業担当者にご連絡いたします。



◆2020年度LUNAの利用実績

2020年度利用実績の集計は下表のとおりです。

| 指標項目 | 指標の定義 | 2010年度 | 2011年度 | 2012年度 | 2013年度 | 2014年度 | 2015年度 | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 |
|------|---|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 1 | LMSを利用する授業科目の比率 全開講科目数(大学・当該年度)に対するLUNAを利用する科目の比率。(LUNAを利用するとは「お知らせ・教材・掲示板など」に教材や記事が掲載されている科目とする。) | 12.2% | 34.6% | 35.7% | 38.7% | 40.4% | 43.8% | 47.6% | 50.6% | 54.7% | 56.1% | 85.7% |
| 2 | LMSを利用する専任教員の比率 全専任教員に対するLUNAを利用する専任教員の比率。(LUNAを利用する専任教員とは「お知らせ・教材・掲示板など」を利用している科目がひとつでもあることとする。) | 53.9% | 59.4% | 60.9% | 69.8% | 73.5% | 76.2% | 76.9% | 80.0% | 85.4% | 88.4% | 100% |
| 3 | LMSを利用する学生の比率 LUNAにアクセスした学部学生数÷在籍学生数(学部) (1回でもLUNAのページにアクセスしたらカウントする。) | 65.8% | 85.9% | 89.0% | 92.0% | 92.5% | 92.3% | 93.6% | 94.3% | 94.0% | 94.9% | 98.6% |

LUNAを利用する授業科目の比率は85.7% (前年比+29.6%)、専任教員の利用率は100% (前年比+11.6%) でした。また、学生の利用率においても学生98.6% (前年比+3.7%) の結果となりました。

◆LUNAサポートでは以下のサービスを提供しています。ご利用ください

注) 新型コロナウイルス感染防止のため、※印のものは提供を控えさせていただいています。

- ◎電話・メールサポート …… 電話やメールにてお問い合わせをいただければ、サポートします
- ◎出張サポート(※) …… 研究室に直接訪問し、サポートします。個人、複数のいずれでも対応可能です
- ◎来室サポート …… 高等教育推進センター事務室へ来室いただければ、その場でサポートします
- ◎授業サポート(※) …… 教員に代わりLUNAの操作方法のオリエンテーションをおこないます
- ◎ハンドブック …… 教員向け・学生向けを用意しています
- ◎オンラインマニュアル …… LUNA内に詳細なマニュアルを掲出しています
- ◎操作に関する動画 …… LUNA内に基本操作に関する動画など各種操作に関する動画を掲出しています

高等教育推進センターニュースレター

2021年11月1日

発行：関西学院大学高等教育推進センター

TEL：0798-54-7433 FAX：0798-54-7421

〒662-8501 西宮市上ヶ原一番町1-155

<https://www.kwansei.ac.jp/highedu/>

ご意見、ご感想、情報等をお寄せください。寄稿も歓迎いたします。✉ HighEdu@kwansei.ac.jp